

北総鉄道運賃に動き

県が5%値下げ提案

北実会(北総線運賃値下げを実現する会) 吉田治男会長に訊く

来夏開業する予定の「成田新高速鉄道」。その開業に合わせて北総鉄道の運賃を「京成並み」にする運動を続けている北実会(北総線運賃値下げを実現する会)は昨年8月、10万8千人の署名を国土交通大臣に手渡し、値下げを訴えた。あれから1年経った今、県が動き始めた。本紙前号でも報じたが、県が「5%値下げ」と「通学定期の割引率を現在の60%から70%へ」という案をぶら下げて沿線市町村の合意を得ようとしているのだ。しかも、値下げで年間8億6100万円もの減収が生じるといふ理由をつけて、沿線8市町村から資金的支援も取り付けようと必死である。利用者無視とも言える「5%値下げ」案を白井市は受け入れるのか。北実会の吉田治男会長を直撃した。



吉田治男会長

沿線市町村に合意を迫る県の意図は?

●なぜか「5%値下げ」が一人歩きしているように感じる。北総線の運賃が他の路線の平均運賃と比べると、大体2.5倍ぐらいの高さだ。かつて国土交通省の鉄道局長と会ったときは、「(北総線運賃を)半分にしてください」と要請した。それを譲歩して「京成並みの運賃を」ということで10万人もの署名を集めたのだから、5%値下げというのは飲めない。

●県がそう提案している根拠は何なのか。吉田/8月11日、県に「なぜ5%なのか」と尋ねると、国のほうから要請があったということだ。その線で沿線市町村の合意をとってくれと言われたという。北実会は、成田新高速鉄道の開通に合わせて京成並みの運賃にしてもらいたいと要望した。が、県の5%値下げという中には、成田新高速鉄道でもたらされる収益約50億円が除外されている。

●かなりの利益だ。吉田/京成が国土交通省に試算を提出したときの運賃は、京成運賃に基づいた計算だ。それで50億ぐらい利益が出る言っている。50億も利益が確保されるのに、そこからビタ一文出さないとはいえない。北総線の5%引きのレベルでそろえると、さらに利益がプラスになる。それだと儲けすぎということになって、鉄道事業法に抵触するだろう。

●成田新高速鉄道の利用者には、かなり多く見込めるのか。吉田/北総線の利用者は年間3700万人弱と言われている。が、成田新高速鉄道ができるというのだから、5%値下げと増える予定だ。しかも、始発から終点まで利用する人が多い。だから、相当需要が増えるので単価は下がってしかるべきだろう。今まで京成は北総には需要がないと言っていたが、720万人も増えるということは、沿線の人口が増えるのと同じことだ。だから私たち北実会も、これからは大幅値下げを求めていく方針に変わりはしない。

●もつと北総運賃が下がる可能性はあるのか。吉田/ないことはない。今は政治の先が見えない時代だ。なにも5%値下げにこだわる必要はない。

●印西市は5%値下げに賛成しているのか。吉田/そう聞いていない。11日の段階では、2、3の市から合意が取れていないということだ。しかし、国から県、県から沿線市町村というように、行政のレベルで上から下へという干渉が入っている。行政サイドで話がついたとしても、私たち住民サイドは納得しない。

成田新高速鉄道がもたらす利益を白井が共有できる保証はあるのか

選衆院選 本日投票日

選挙人名簿登録者数の増加率 白井市が県内でトップ

訃報



スウィング・ホワイ ト・ジャズ・オーケストラ代表の藤巻定芳氏は、病氣療養中だった。8月13日に亡くなった。享年64歳。藤巻氏は本紙の人物紹介コーナー「博人館」(平成18年9月号)にも登場している。

16日に市内の葬儀場で行われた告別式には音楽関係の仲間が多数参列、故人の意向で「音楽葬」となった。毎年恒例となった同オーケストラの定期演奏会は、予定どおり10月4日に白井市文化会館大ホールで催される。

地元ジャズ・オーケストラ代表の藤巻定芳氏

●白井市はどう対応すべきなのか。吉田/県からのプレッシャーは相当強いようだが、市は慌てる必要はない。

●県への要望は? 吉田/もし仮に行政サイドで5%の合意があった場合、県は住民側の運賃設定も同時に国に提案してほしい。片方だけだと、県が国をミスリードすることになりかねない。県としては国から状況を尋ねられたときに偏った見方を報告して国の判断を誤らせることは絶対にあつてはならないことだ。そのことは、すでに県に要請した。

●北実会としては今後どんな活動をするのか。吉田/成田新高速の通過旅客は、線路使用料を北総鉄道に1円も払うことなしに、北総線を利用している。北総線を利用している。高運賃を払い、鉄道を維持してき

た沿線利用者が、大きな不利益を被ったままになつてしまう。こんな体制が今後も引き続き維持され、高い運賃が継続されるようになっている。国には根本的な仕組みの変更を求めて行くつもりだ。(8月23日)

●成田新高速鉄道の利用者が増加すると、収益は予想以上のもことになる。沿線自治体の資金的支援はどうか。鎌ヶ谷市の清水市長は「自治体支援は難しい」との見解を明らかにしている。鎌ヶ谷市議会では8月27日に全員協議会が開催されたが、議会の趨勢は反対に傾きそうだ。船橋市も同様である。

9月1日から白井市議会が幕を開けるが、この問題への対応が注目される。市も焦って決定する前に、北総運賃に関してのタウンミーティングなどを開催し、広く市民の声を聞くべきだ。

解説 まづ住民の意見を

成田新高速鉄道は来年3月に工事が完了し、試験走行が始まる。開業は夏の予定だ。開業が8月として、2か月前には運賃体系発表の段取りということになる。つまり、運賃申請は来年2月でも間に合う。12月に決定しても問題はないのだ。いざいざにしても、沿線住民の声を聞く責任がある。10万人署名を重く見るべきだろう。吉田会長が指摘するように鉄道事業法に抵触することも大いに予測できる。首都圏大手私鉄8社の平均利益率は20%強となっているが、同事業法では適正利潤以上の儲けは許されな

い。新高速鉄道の利用者が増加すると、収益は予想以上のものになる。

船橋市北部清掃工場見学会が10月17日に実施される。同工場と船橋市北部清掃工場問題対策会議の共催によるもの。26年前に稼動した同工場は老朽化のため、平成25年に建て替え工事が始まり、平成29年に稼動する予定だ。ちなみに工場見学会は毎年行われており、今年も参加者を募集する。見学会は午前10時から正午まで。(問合先)北部清掃工場(電話047-457-5341/長尾)

白井パークゴルフクラブ新会員募集

連絡先(田代) 電話4911-9704

千葉県選挙管理委員会 は8月17日、選挙人名簿登録者数(同日現在)を発表した。県全体では男性251万8770人、女性252万4603人、の計504万3373人で、平成17年に行われた前回の衆院選より3.61%増加している。

市町村別に見ると、白井市が11.60%増でトップ。以下、本埜村9.85%、印西市9.61%と続く。北総鉄道沿線・千葉

しろい通信 vol.41 通信

発行部数1万6500部 隔月刊 白井市南山1-3-8-101 TEL(047)492-2396 FAX(047)492-2364 編集人/上野佳正 発行人/幸正純治

平成21年(2009) 9月号